

進捗状況の概要 【1ページ以内】

一橋大学経営管理研究科国際企業戦略専攻（旧国際企業戦略研究科）（ICS）と北京大学光華管理学院（PKU）及びソウル大学経営学部・経営専門大学院（SNU）は、将来の日本・中国・韓国のビジネスリーダーを育成するため3校間で構築した“BEST Alliance”をベースに、平成23年度より5年間「大学の世界展開力強化事業」“アジア・ビジネスリーダー・プログラム”（ABLP）としてダブルディグリー・プログラム、学期間交換留学、短期集中の3プログラムを中心に、質の高い単位認定・評価システムを構築し、教育におけるグローバルな国際連携を推進した。本事業は、「**アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ（アドバンスト）**」（**ABLPⅡ**）として、キャンパス・アジアパイロットプログラムであるABLPにおいて実施した3校間の交流事業の継続と充実を図るとともに、そこで得た知識・経験を活かし世界の発展に貢献しうる“グローバルに活躍できる人材”の育成を目的に掲げ、随時教育内容・システムの改善等を積極的に行った。

3国間のダブルディグリープログラム、学期間交流プログラムについては、覚書改訂プロジェクトが平成29年度までに完了したことにより、よりスムーズな単位互換が実施できるようになった上、成績管理・学位授与プロセスが明確になった。今後は、PKU、SNUのコーディネーターとの連絡を密にとり、計画通りの交流学生数に近づけるように努めていく。

H28.11月14日～15日、SNU Study TourにてSNUの学生29名が企業訪問を含むICSでのセッションに参加した。短期集中プログラムにおいては、H29はSNUの学生が2名、急遽参加不可能となり、PKU学生10名、SNU学生8名、ICS学生10名の参加となったが、積極的な交流を行い、それぞれの国において講義、企業訪問を行うことにより、社会、文化を相互に学習することができた。平成29年にExecutive MBAコースが開設されたことにより、より一層ICSのプログラムが充実するものとなった。MBAの学生達も経験豊かなExecutive MBAコースの学生と交流することにより、将来のビジョン、知識をより一層深めることが可能となった。

平成30年6月にはオンラインコースが開始し、物理的な移動をせずに質の高い講義を受けられるようになった。今後は更にオンラインコースを充実させ、プログラムの充実を図っていく。そしてICSのグローバルな環境を利用し、三国間の枠を超えた世界を見据えたグローバルリーダーを育成していく。

本事業により得られた知識・成果に基づき、より広域かつ多様なプログラムへの進化を図るため、他のアジア諸国も含めた交流プログラムも積極的に実施していきたい。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
16人	2人	26人	31人	16人	12人	26人	22人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

キャンパス・アジア・パイロットプログラムで得た知識・経験を活かし、更に充実したプログラムとなった「アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ（アドバンスト）」（ABLPⅡ）が平成28年度より開始した。

日々グローバル化する経営環境において、新しい「知識」「情報」「技術」が重要性を増している。

ICSでは学生の大半が海外からの留学生で形成されており、学内のグローバル化は既に整っている。

プログラムの内容としては、経営大学院における最先端の実例とチューニング・ノウハウを通じて、わが国における高等教育のグローバルリーダーとしての役割を果たし、将来グローバルに活躍できる人材を育成するとともに、自国の言語、文化、習慣なども学ぶ場を積極的に設けている。

ICSで学んだ学生達は、ICSで得た「知識」「情報」「技術」を自国のそれと融合させることにより、世界・社会のニーズに効果的に応えられる人材になる。

また、ICSでは高い評価をいただいているMBAプログラム同様「二つの世界の融合」（The Best of Two Worlds）というミッションのもと平成29年9月からExecutive MBAコースが開始し、平成30年1月にはEMBA学生とMBA学生達が積極的な意見交換をする場が設けられた。交流の場では“Career Anchors”をテーマに、EMBA学生1名に対し、MBA学生3名の小グループで意見を交わすことで、MBAの学生達には、自分のキャリアについてより深く考える機会となり、また、自分たちの将来のビジョンや、ビジネスパーソンとしての知識をより一層広げる場になった。

平成30年には新たにオンラインコースを開始し、更に質の高い授業を学生に提供する。オンラインコースは、移動時間がとられず、また自由な場所から受講できるため、相手校の教授にとっても、また学生にとってもメリットとなっている。

今後、オンラインコースを更に増やし、プログラムの質を上げ、より高い基準の「知識」「情報」「技術」を提供する。